

愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	教育原理		
担当者(Instructors)	土平 健雄	配当年次(Dividend year)	1
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)
人間の生涯発達過程について、乳幼児期から児童期、青年期そして成人期の諸時期ごとの諸特徴を細かく検討しながら、各時期の発達過程を発達環境（家族・施設・学校・地域・情報など）との関係のもとに分析して問題点や諸課題を指摘する。

■授業形態・授業の方法(Class form)	
授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	Google Classroomを利用してオンデマンド方式の遠隔授業を行う。学生は、教科書や参考資料を読み、それに基づいて教師から出された課題に対して毎回レポートを作成し提出する。教員は提出されたレポートを採点し、総評を付けて一斉に返却する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)			
回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	教育の意義と目的－人間発達と教育	まだ生協から教科書が届かない学生が相当数いるということで、急遽、その当時国民的関心と呼んでいた9月入学制度の是非についてディベート形式のレポートを作成した。	□
第2回	教育の意義と歴史－習俗としてのしつけと学校教育の成立・普及	教育の語源（漢字・英語・仏語・独語）、教育の本質や意義（ポルトマンの生理的早産説やロックの精神白紙説）などについて学ぶ。	□
第3回	教育の思想と歴史（1）近代教育の源流－ルソーと「子どもの発見」	近代の教育に大きな影響を与えた、教育小説『エミール』の著者で、教育史上「子どもの発見者」として知られるJ.J.ルソーについて、その生涯や教育思想を中心に学ぶ。	□
第4回	教育の思想と歴史（2）近代学校制度の源流－デューイとモンテッソーリの新教育	19世紀から20世紀にかけて世界中で展開された「新教育」の代表的な理論家であり、わが国の教育にも大きな影響を与え続けているJ.デューイについて、その教育思想や教育実践について学ぶ。	□
第5回	現代の学校の基本的特徴（1）高度産業社会と学校	古代ギリシア・ローマの学校、中世から近世にかけてキリスト教会により設けられた種々の学校、産業革命以後、近代国家により整備されてきた学校、それぞれの特徴を学ぶ。	□
第6回	現代の学校の基本的特徴（2）生涯学習時代と学校	生涯教育と生涯学習の概念の相違、改正教育基本法に新設されたほど重要な家庭教育、学校教育と対比した社会教育の概念およびその施設や職員などについて学ぶ。	□
第7回	学校制度（1）教育課程とカリキュラム	カリキュラムの語源と教育課程との関係、経験カリキュラムと教科カリキュラムの特徴、教育課程の基準である学習指導要領の概念とその変遷について学ぶ。	□
第8回	学校制度（2）学力の構造	教育方法の概念、ヘルバルト学派の「五段階教授法」の長所と短所、今日求められる「主体的・対話的で深い学び」とはどういうもので、どうしたら身につくかを学ぶ。	□
第9回	学校制度（3）学校組織と学校評価	近年、「学級の荒れ」が問題になっているが、4領域にわたる学級経営のあり方について、幼稚園や小学校時代を振り返り学ぶ。	□
第10回	学校制度（4）市場競争主義のなかの学校づくり	市場競争原理のはびこる今日の社会において求められる学校づくりについて、学校経営を軸に学ぶ。	□
第11回	教師教育（1）専門職としての教師の資質・能力	教師像の変遷、聖職・労働者・専門職、それぞれの教師観の特徴、教員の職務や今日的課題などについて学ぶ。	□
第12回	教師教育（2）教員養成の歴史・現職教育と資質・能力向上	教員養成の歴史、増え続ける問題教師、教員の資質・能力の向上について学ぶ。	□
第13回	学校と地域社会（1）学校教育と児童福祉	学校教育と児童福祉との関係、望ましいあり方などについて学ぶ。	□

第14回	学校と地域社会（2）学校を支える諸機関とスクールソーシャルワーク	学校と地域社会との関係や諸機関との連携について、特別活動と部活動を軸に学ぶ。	☐
第15回	歴史的視点からの現代学校教育の課題	歴史的視点を踏まえて、現代の学校教育の諸課題について、教育行政を軸に学ぶ。	☐

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

授業の前に自分で教科書の該当部分を読み、概要を理解する（1時間程度）。授業後は、教科書や参考資料を読み返し、不明な点はネット検索などを行い、課題レポートを作成し、提出する。（3時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回、授業ごとに教科書や参考資料を読み、課題レポートを作成し、提出します。提出されたレポートは、毎回ルーブリックを用いて採点し返却します。各自、ルーブリックにより、おおよそ評価の観点とレベルがわかります。また返却の際には、簡潔な総評をつけて返却します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	小学校教諭・幼稚園教諭・保育士になるために、その免許と資格を得るのに必須の教育に関する基本的な知識や技能を身につけているかどうか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	小学校・幼稚園・保育所をはじめとする児童福祉施設での教育・保育に主体的協働的に携わることのできる幅広い人間力を体得しているかどうか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
0%			100%	0%

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	佐々木正治編著『新初等教育原理』福村出版	978-4-571-10169-4
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	参考図書は授業中に適宜紹介する。	
2		
3		
4		
5		